

○ 優良協働事例の紹介（平成 25 年度）

## 「塩の道コミュニティエリア再生事業」

平成 25 年度信州協働大賞【優秀賞】

### 1 主な協働の主体

主団体：一般社団法人縁家（大町市）  
大町民話の里づくりもんぺの会  
（株）創舎 わちがい  
京都大谷茶園  
農園カフェラビット  
仁科路研究会  
大町山案内人組合  
FM長野  
くろよん 50 周年記念事業実行委員会  
若一王子神社  
信濃毎日新聞出版社  
NAC 友の会  
パッチワーク教室 パステル・パッチ  
秋香会  
大町市  
大町市教育委員会  
長野県（北安曇地方事務所地域政策課）

### 2 事業実施に至った経過

塩の道(千国街道)の中央に位置する築約 130 年の当施設は、30 年前に建物の保存をするため博物館となりました。

平成 24 年運営会社解散に伴い閉館となりましたが、市民や訪れる観光客から存続を望む声が多数寄せられました。歴史ある建物を次世代に継承するためにも新たな運営を目指し、法人を立ち上げ事業を行うことといたしました。

今まで当施設を訪れたお客様や宿泊業者より、市内に 1～2 時間程で体験できるプログラムや施設があるといいという意見を多く頂戴していました。当施設の中にもそういったメニューはありませんでしたが、その要望に対応することにより、利用者の満足度も上がると考えました。

地域の伝統食や文化を掘り起し体験してもらうことで、多くの方に大町の食や歴史・文化を知ってもらえ、大町の価値を広く知ってもらうことにもなります。

自分たちの住む地域の歴史や文化を見つめ直し、さらに観光資源とし、地域や世代を超えた交流の場を創造することで人と文化を育み、町の魅力発信・歩いて楽しいと思える町づくりを

推進していく必要があります。

住民が集い歴史文化を学ぶ場を提供することで、地域や世代を超えた交流の輪を広げ、さらに観光拠点として活用し、「教育」「観光振興」「地域経済活性化」につなげていくため事業実施に至りました。

※ 建物の価値を多くの方々に知っていただくため、「登録有形文化財建造物」としての申請も検討していく予定です。

### 3 事業内容

- ・ コミュニティスペース改修・・・食の講座等で使用
- ・ 市民・観光客を対象にした「食の講座」開催（1回15名×年10回）

※ 地域で郷土食の継承に尽力されているお年寄りなどを指導者に迎えています。

7月29日、食の講座「七夕まんじゅう作り」で、市内で活動している語りサークル「もんぺの会」の女性2名を講師に迎え開催



8月11日、食の講座 夏休み子供企画「塩を使ってアイスキャンデーを作ろう」で、市立エネルギー博物館元副館長を講師に迎え開催

8月31日、食の講座「夏の甘酒を楽しむ」で、市内飲食店「わちがい」の従業員を講師に迎え開催



9月22日、食の講座「大町のおいしい水でおいしい日本茶を淹れよう」で、京都大谷茶園園主大谷英之氏を講師に迎え開催

10月29日、食講座「大町のおいしい水を使っておいしいコーヒーを淹れよう」で、中山高原農園カフェ「ラビット」の従業員を講師に迎え開催



(その他の主な催し)

9月22日、12月1日、文化講座「古文書を読む 江戸時代の旅」にて、市内で活動する歴史研究サークル「仁科路研究会」の会長を講師に迎え開催



11月10日、文化講座「大町の宿場の成立」にて大町市教育長を講師に迎え開催



10月14日、大町市の観光情報を紹介するため、FM長野「エコーズ」公開生放送を実施

11月2日、講師に大町登山案内人組合のガイド2名を依頼し、市内の塩の道を歩くイベント「北アルプス展望 塩の道ウォーク」を開催



#### 4 各主体の役割分担

現在、各種団体等との定期的な打ち合わせ等はありませんが、ほぼ毎日とっていい程、地元の方や各種団体の関係者等が立ち寄っており、気軽にお茶を飲みながら日々情報交換をしています。

例えば、地元の年配の方々は、ボランティアで当施設内の植え込みの剪定や草取りに訪れたり、その時に昔から地元で伝わる古い文化なども教えていただき、企画を考える上で参考にしています。

また、各種団体の方々は、ちょうじやの古い施設を生かしながら新しい企画（映画上映会や語りの会・音楽会等）も提案してくれるため、運営主体の(一社)縁家はそれを実現させるよう努めています。

- ・一般社団法人縁家 当該事業の実施主体として各種団体との協働により各種講座等を実施
- ・大町民話の里づくりもんぺの会 当該事業の一環として開催された食の講座の講師として事業に参画
- ・(株)創舎 わちがい 当該事業の一環として行われた食の講座の講師として事業に参画
- ・京都 大谷茶園 園主 当該事業の一環として開催された食の講座の講師として事業に参画
- ・農園カフェラビット 当該事業の一環として開催された食の講座の講師として事業に参画
- ・エネルギー博物館元副館長 当該事業の一環として行われた食の講座（夏休みこども企画）の講師として事業に参画
- ・仁科路研究会 当該事業の一環として開催された文化講座の講師として事業に参画
- ・大町山案内人組合 当該事業の一環として開催されたウォーキングイベントの講師として事業に参画
- ・麻倉プロジェクト・(株)創舎 わちがい 当該事業の一環として行われた「大町のしつらえ展」を開催し、事業に参画
- ・FM長野 施設で公開生放送を実施し、当該事業を含む大町市の観光PRに協力
- ・くろよん 50周年記念事業実行委員会 当該事業の一環としてダム建設写真展を開催し当該事業に参画
- ・文化財センター・若一王子神社・市民 当該事業の一環として行われた「写真展」を開催し事業に参画
- ・信濃毎日新聞出版社 当該事業の一環として行われた写真展を開催し事業に参画
- ・NAC友の会 当該事業の一環として行われたスケッチ作品展示を開催し事業に参画
- ・パッチワーク教室 パステル・パッチ 当該事業の一環として行われたパッチワーク展を開催し事業に参画
- ・秋香会 生花（菊の花）の貸し出しすることにより当該施設の美観の向上に寄与
- ・大町市 補助金を通じて取組を支援、文化講座等の講師等で参画
- ・県 元気づくり支援金を通じて取組を支援

## 5 事業の成果

塩の道博物館時代は、観光客向けの施設として展示等を主としていました。

今年、「塩の道ちょうじや」としてスタートしてからは、地元の人々が気軽に立ち寄り、また様々な交流の場の拠点となるような施設になることを目標にし、各講座等を企画・実施しています。

当初目標のとおり、市内外から大勢の方が当施設に来館し、また幅広い年齢層の人々が講座に参加しているため、各世代間の交流も生まれています。

講座の他にも、塩の道文化を発信するため文化講座やウォーキングイベントも開催しましたが、遠くは松本や塩尻からの参加者もあり、観光資源として塩の道を活用できています。

反省点としては、講座の回数が多い為、チラシ作成・広報・集客に苦勞しています。ただし、定期的に開催しないと定着はしないと考えていますので、今後はイベントスケジュールなどをしっかり組み立て計画的に集客に努める予定です。

また、大町温泉郷の利用客を市内に誘導したいと考えていますが、現在は温泉郷への宣伝や広報が完全には出来ていない状況です。今後は宿泊業者とも連携をし、短時間でできる体験メニューを作り、観光客の皆様にも楽しんで頂けるような仕組みを作りたいと思っています。

- 平成 25 年 12 月現在 入館者約 7,600 人 (H24 同時期+300 人)  
当館イベント参加者約 300 人  
館外イベント受入約 1,050 人

## 6 今後の予定

「塩の道」を生かした事業については、今後も継続・展開・拡大を考えています。

この施設を生かしていくには、多くの団体や組織等と連携をすることが不可欠です。事業に関わる人々が、当施設で企画する講座・イベント等で活躍する事によって、やりがいや生きがいなどを感じて頂けるようになる事も目標である為、今後も様々な企画を打ち出していく予定です。

なお、反省点については、今年度の事業の完了を受けて次年度以降に反映させていく予定です。